

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第一部 労働者状態

IV 合理化の現状と労働災害・職業病

3 労働災害・職業病

2 職業病

業務上疾病にかんする労働省統計は、八〇年までしか発表されていないが、そのかぎりでは、若干の特徴をみておこう。

業務上疾病発生状況の年次別推移

まず業務上疾病の発生状況を年次別に通観してみよう(第44表)。六六年以降、目立って増加していた疾病件数(休業一日以上)は、七九年、八〇年と大幅に減少した。なお疾病率も七九年と八〇年はかなり減少した。

産業別種類別発生状況

つぎに、八〇年の産業別、疾病の種類別発生状況をみてみよう(第45表)。産業別では、製造業が七〇二〇件と全体の三八%を占めている。ついで建設業三九六五件(二一%)、運輸・交通業二五一八件(一四%)となっている。

疾病の種類別では、負傷に起因する疾病一万三六三〇件、全体の七三%と断然多く、ついでじん肺症関係二三六五件が目立つ。負傷によらない業務上の腰痛は産業をとわず、広範に発生している。

【参考資料】(1)日本造船工業会『造船界』、日本鉄鋼連盟『鉄鋼界』、(2)『週刊東洋経済』、(3)日本興業銀行『興銀調査』二一二号、八二年No3、(4)『経済』二一九号、八二年七月、(5)『賃金と社会保障』No八八四、八二年六月下旬号、(6)『日経産業新聞』、(7)労働省「昭和五六年労働経済の分析」、(8)『月刊いのち』、総評「労働ニュース」、(9)臨時行政調査会第三次答申

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始